

基本方針Ⅱ 社会貢献活動に対する県民の理解と参加の促進

実施項目	行動計画 (P)			取組目標	実行 (D) 実施状況や事業の効果	評価 (C) 課題等	改善 (A) 今後の取組	H30年度の 目指すべき姿	実施 主体
	行動計画の 項目	実施内容(計画上の記 載)	具体的な取組内容						
1 県民への普及啓発	① 県民向けの 効果的・戦 略的な情報 発信	ホームページや各種情報誌、マスメディア等を活用し、若い世代や団塊の世代など幅広い年齢層の県民に対し、社会貢献活動についての理解を深めるための普及啓発を行う。	・マスコミを活用した情報発信のルール策定	【年2回検討会実施】	マスコミを活用した情報発信のルールの策定は、マスコミ担当者の異動に伴い白紙状態になっており進んでいない。	世代により効果的な媒体が異なる。対象を絞り、その世代に合った媒体に照準を合わせる必要がある。	世代ごとの効果的な媒体を検証し、段階的に効果的・戦略的な情報発信に取り組む。	・県民の社会貢献活動に対する意識の向上	センター
	② セミナー、 シンポジウ ム、体験学 習等の実施	県民対象のセミナー、シンポジウム、体験学習の機会などを設け、県民の社会貢献活動についての理解を深める。	・ボランティアガイダンス等及びNPOフォーラムの開催	・ボランティアガイダンス等 【年1回開催】 ・NPOフォーラム(再掲) 【年1回(200人)開催】	【センター】 ・ボランティアガイダンスの開催(10月12日 参加者54人) ・夏のボランティア体験2015(ナツボラ)開催期間:7月18日～8月31日 受入団体:51団体 のべ916人参加(昨年度比265名増) 【ネットワーク】 こうちNPOフォーラム2015 2015.12.12開催、メインテーマは「NPOのシンカ(進化・深化・真価)のカタチ」高知県西部NPO支援ネットワークとしては第3分科会「大規模災害時に問われる連携の真価～多様なセクターとの連携を考える～」に話題提供者として出演 東日本大震災時の取り組みを参考に県内での災害ボランティアセンターの取り組みの再構築 【市民会議】 ボランティアガイダンス2015 「自分に合ったボランティア活動を見つけた人」と「ボランティアを募集したい団体」との出会いの場を提供。たくさんのおいしいマッチングが生まれ、ボランティアの輪がさらに大きくなることをめざす。 NPOフォーラム NPOのシンカ(進化・深化・真価)のカタチをテーマに、人々の暮らしに直面する様々な課題に取り組む高知県内のNPOが一堂に会し、高知の課題に向き合い、その解決に向けたNPOの役割を見つめ直し、NPOのシンカのカタチを考え、実践できることを目指し実施した。	【センター】 ・参加者数が伸びない。 ・受入先のボランティア内容の充実。 【ネットワーク】 県内NPOと行政等との協働の場としての取り組みの弱さ 【市民会議】 ボランティアガイダンス2015・ボランティアガイダンス単独開催3年目となるが、参加者は54名と昨年の63名より若干少なかったが、一昨年の112名と比較すると大きく下回った。 ・講演の満足度は、「参考になった」が回答者中88%と評価が高かった。 NPOフォーラム 分科会1の「学生時代にNPOを立ち上げた先輩から学ぶ～『なにかやりたい』のその先へ～」は、大学生や若者の参加が多く、学生時代にNPOを立ちあげた先輩方の思いや実践経験談を聞くことができた。分科会2の「アナタのNPO、仲間内の活動になっていませんか?～フェンドレイジングとNPOの深化～」は、これからNPOを立ち上げたい方にも参加していただけた。分科会3の「大規模災害時に問われる連携の真価～多様なセクターとの連携を考える～」では、東日本大震災において、岩手県の復旧・復興に大きな役割を果たした2団体の連携事例をもとに、高知での大規模災害時の各種団体との連携及び平時からの連携のあり方を考えることで減災に向けたNPOの役割を再認識することができた。	【センター】 ・呼び集めるのではなく、大学など若者のいる施設で開催することにより、潜在層へダイレクトに働きかける。 ・多様な活動の場の提供。 【ネットワーク】 災害をテーマに行政との協働推進に 【市民会議】 ボランティアガイダンス2015・「やりたいボランティアが見つかった」が78%だったので概ねネライは達成されたが、参加者数でいうと検討の必要がある。 NPOフォーラム 来年11月はすでに福祉交流プラザが予約ができない状況であり、他の施設及び高知県立大学を会場として使えるようにするには、大学と共催すれば可能となるが、内容に制約が出る可能性がある。 ・実行委員が少ないので、来年度はいろいろな方に声をかけて増やしたい。また、今回は若い世代の参加が多かったため、その方たちに声をかけてみてはどうか。 ・コンセプトを明確にして広報に繋げ、参加者にとってのメリットを考えてみる	・県民のボランティアに対する理解の増進 ・県民の社会貢献活動に対する理解の増進	中間支援組織

実施項目	行動計画 (P)			取組目標	実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	H30年度の 目指すべき姿	実施 主体
	行動計画の 項目	実施内容(計画上の記 載)	具体的な取組内容		実施状況や事業の効果	課題等	今後の取組		
2 学習 機会 の 創出	① 大学等のN PO関係講 座の活用	県内の大学等で行われて いるNPO関係講座につい て、県民が聴講できる機 会を確保する。	・大学(地域連携センター) との継続協議	【公開講座の開催】	高知大学でNPO入門などの公 開講座が実施されている。	継続的に取り組みがなされ ている。	必要に応じ、センター・県・ 大学等が連携し、情報共有 をしていく。	・社会貢献活動に 対する意識の向 上、社会貢献活 動の充実	センター 県 (県民生 活・男女共 同参画課)
3 寄附 の 促 進	新規 ① NPOによ る寄附募 集の取組 の強化	NPOが自らの活動内容を 分かりやすくアピールでき るよう、効果的な広報活動 により、寄附募集の取 組を支援する。 また、寄附付商品の開発や 販売など、新しい形の寄附 の普及を支援する。	・情報発信の研修会の開催 ・寄附募集支援事業の実施 (NPOや県民を対象とした 寄附募集に関する研修会 や交流イベントの開催) ・資金調達に関するアドバ イザーの派遣	・情報発信の研修会 【年2回開催】 ・寄附募集支援事業 【年1回開催】 ・資金調達に関するアド バイザーの派遣 【年4回実施】	・NPOへファンドレイジングの専門家 派遣を行った。(件数1、回数2) ・ファンドレイジングセミナーを開催し た。(10月20日) ・寄付募集ガイドの作成(作成中)	・専門家を派遣することにより効果 的なアドバイスができた。	・今後も専門家派遣を行い、NP Oの資金面の支援を行う。	・県民の社会貢献 活動に対する理 解の増進 ・NPO法人の寄 附収入割合の増 加	センター
	② 寄附に対 する県民 の意識啓 発	社会貢献活動を紹介するイ ベントや、学校への出前講 座を通して、県民の社会貢 献活動に対する理解を促進 する。	・寄附募集支援事業の実施 (NPOや県民を対象とした 寄附募集に関する研修会 や交流イベントの開催) ・学校への出前講座「寄附 の教室」の開催	・寄附募集支援事業 【年1回開催】 ・学校への出前講座「寄 附の教室」 【年1回開催】	・高知龍馬学園にてNPO法人BRID GEと協働で公務員科1・2年生を対象 に出前授業を開催 (他NPO4団体協力)	・出前講座は授業後に活動発表 団体にボランティアとして参加す るなど一定の効果が見られた	・引き続きこのような機会を設けて いきたい	・県民の社会貢献 活動に対する理 解の増進 ・NPO法人の寄 附収入割合の増 加 ・社会貢献活動に 対する理解の増 進	センター